

ユースミーティング「役所の方との対話会」実施報告

2025/6/12
認定NPO法人D×P

●実施概要

【参加者】

大阪市中央区:松田区長、塩谷保健福祉課長、柴田保健福祉課長代理、杉之原係長

大阪市福祉局:大森課長代理

若者:9名

D×P:6名

【実施日時】

2025/6/4(水)15:30-17:45

D×P ユースセンター

【企画背景】

大阪市は、戎橋下の座込みやそれによるごみのポイ捨てを防止を目的に、戎橋下の万能塀設置を行った。また、家庭での虐待・ネグレクトなど様々な理由から居場所を求めて戎橋下に集まる若者たちに対しても個室の緊急宿泊場所を新たに用意するなど必要な支援に取り組んでおられる。

一方で、若者たちからは万能塀の設置に対して、「居場所ない子達がやっと見つけた居場所を奪うだけ奪って何も与えてくれない私たちが悪いの?」「橋下にいること自体がひとりで悩まないためにしてること」「子供の意見を取り入れず行動されるのは違う」といった意見が上がっており、公的機関に対して、ネガティブな印象を持つ機会になってしまっている。

【企画目的】

グリ下に集まる若者が「役所の人も若者の意見を聴いてくれた」という経験を得て、相談するハードルが下がることを目指し、若者9名、D×Pスタッフと一緒に、万能塀や役所の相談窓口、役所の広報に関する意見交換会「ユースミーティング」を実施した。

●対話ログ

①万能塀について

(若者A)

・警備員が塀に来る。座ってたらず邪魔って言われる。それやったらつくらんといてほしい。

(若者B)

・浮庭にも警備員が来る。橋下の方は、いないと思ってるんだと思う。

・お金がもったいない。

・根本的な解決になっていない。若者のための居場所ではないけど、何かをしようとしたら誰かが傷つく。

(若者C)

- ・量産型とか、地雷系の服を着てる人に警備員がめちゃくちゃ声かけてくる。

→役所の方の返答:邪魔という言い方はよくない。通路をふさいでいるとよけてねと声をかけることはある。

(若者D)

- ・スマブラで勝ったら万能塀を壊してほしい。

→役所の方の返答:難しい。

- ・万能塀できても万博あるし仕方ない。浮庭や三角公園とか、行くところはある。

②ポスターの内容について

(若者B)

- ・タイトル下「必要な支援につなげます！」のところ、断定していいのかどうか。

→役所の方の返答:話を聞くという意欲の表れが背景としてある。

→「つなげます」と言われて、つながらなかったら不信感につながる。

代替案として「話を聞きます」「一緒に考えます」などが、若者Bやスタッフから出た。

- ・泊まれる期間がわからない

→役所の方の返答:原則2週間まで。ポスターにも1時滞在であることを追記する。

- ・ご飯や宿泊が無料、いいなあ。

(若者F)

- ・住居無料と書いてあると、働かなくてええやんって思う

→役所の方の返答:実際は就労までのサポートをしたり、期間を区切ったりしながら相談対応をしている

→「そういうことも書いて欲しい」

- ・住居の写真「こわい」「(若者Dに)人が寝転んでたらいいやん」

(若者E)

- ・中身が見えないこと、表現がテンプレート的で詐欺っぽい

- ・(よく知らない情報にアクセスすることが怖い)QRコードも怖い。URLがあると検索できるのでリンクを入れて欲しい

- ・住居の写真も、カーテンが閉まっていて怖い。他の家具や人の写真もほしい

③役所への印象について(役所への相談しづらさについて)

- ・そもそも知らない人に相談しようと思わない

- ・(若者C)相談することない。自分ですでにどうしたいか決めてたりするから、わざわざ相談とかしない。それよりこれみたいに意見を言い合う場でいいかな。

- ・(若者G)同じく、相談することない。それよりも、喫煙所増やしてほしい。と言いつつ訂正で、路上喫煙できるようにしてほしい。ゴミ箱、灰皿増やしてほしい。

- ・(若者H)(役所の人の印象について)かたい。
- ・(若者C)表情。スマイルくださいって言いたい。みんな同じ髪型、服装。

→役所の方の返答:もっと明るくやわらかくできるようにする。

- ・(若者H)話すところが奥まって話しづらい。奥のスペースにつれていかれる。生活保護はイメージつくけど、それ以外は相談してもなって思う。

→役所の方の返答:セキュリティ上そうになっている、という意図がある。オープンスペースが良ければ、言ってくれたらOK。

- ・(若者G)詰められそう。説教されそう。警察とつながってそう。

→役所の方からの返答:説教する人を自分が説教したる。

- ・(若者B)しんどい中で役所に行って、待たされて、あるいは何もならなくて帰るのがつらい。誰かが一緒に役所についてきてくれるとか、そういうのがあったらいい。ユースの人、前一緒に病院来てくれた。

- ・何か支援してもらおうと思ったら、必ず申請しにこちらが行かないといけない。こちらからのアプローチがないと対応してもらえない。水際対策とかあったら、2回も3回も行く気なくしちゃう。

→役所の方からの返答:役所から受け入れ口を増やすことについては、予算や人員の課題がある。

④啓発動画について

(若者B)

- ・言葉が抽象的で伝わらない。
- ・1つ目、繁華街は楽しいけど、孤独もある、というような文章を読んで、繁華街は楽しいんじゃないくて、誘惑が多い。しかも、孤独になるから繁華街に来る。
- ・色んなトラブルに巻き込まれる、という文章を読んで、どんな？と話す。具体的に書かないとピンとこない。例えば？と質問され、自分の時は、違法薬物や、未成年に声をかけたり、と返答していた。
- ・相談に乗るという文章について、スタッフと一緒に、住まいのことなのか、仕事なのか、体のことなのか、と話す。

(若者E)

- ・横のサイズの動画は、サムネに惹かれないと見ない。
- ・ショート動画にしてほしい。
- ・企画書にあった芸人さんの写真のフォントや背景色もビックリマンカードみたいで嫌だ
- ・やらせている感が嫌だ。
- ・福祉局の方に、「企画段階で、後ろ姿だけでもカットを入れられないかという案があるがどう思うか」と質問され、「何かをやらせるとかではなければ」と答える。

⑤終了後の感想

(若者A)

- ・「気まずい」(来所してすぐの時も同様の発言があった)

(若者B)

- ・「うーん。変わらんのやろな一ってかんじ。役所の人も上の指示で動かなあかんからかわいそう。」
- ・若者と役所の方が一緒にゲームをしてる様子を見て、「あんな役所じゃ見れへんしなー」。
- ・「地域によっていい人といやな人がいるのは嫌」
- ・そのほか「方針が変わると予算がなくなる的な話をされた。」「できないことは「できない」と言ってくれればいいのに、そうですよねと言いつつ流されるのが嫌だ。」とも話していた。

(若者C)

- ・「うーん、ふつう！今日は(ユースセンターに)遊びに行けたらよかったから」

(若者E)

- ・「めっちゃ言いたいことあるとかじゃないけど、まあ話せた。」



●D×Pスタッフ所感

・大人が若者をひとくくりにして判断することがあるように、若者側も「大人」とひとくくりにな否定的にとらえていることも多い。実際に関わっていくうちに印象が変化していくこともあるため、こういった対話の場がくれたことが大きな一歩である。対話の機会をつくっていただきありがとうございました。

・ひとりひとりの意見が大切である一方で、ユースセンターにはこれまで1396名の利用があり、普段の開所では1日あたり40～60名が利用する。今回の意見がグリ下に関わる若者全体の意見ではないことも留意したい。

・終了後に「かわらないと思う」という意見があった。万能塀や啓発動画など「実施が決まっていること」ではなく、具体的な方向性を決める前に意見を聴くプロセスが必要かと思われる。今回の機会をスタートとして、若者の声を聴きながら若者や街にとって良いあり方を今後も一緒に検討していきたい。